

思想・信教の自由を守る集会メッセージ  
「共に生きる世界を目指して」 関田寛雄

2022.02.11

はじめに

1928年生まれの際は、いわゆる「15年戦争」を身をもって体験して参りました。昭和に入ってからのは日本は軍国主義的政治によって、思想・信條の自由は徹底的に抑圧され、当時「敵性宗教」とされたキリスト教は激しく弾圧・迫害されました。

牧師の息子として生まれた私は様々ないじめを経験する中で、保身の思いと共に「軍国少年」の歩みを始めました。普通の日本人よりも更に忠誠な天皇の臣民として振る舞うことを目指し、やがて本心から「大東亜戦争」の理想を信じ、「西欧植民地支配からのアジア民衆の解放としての聖戦」を旨として生きるようになりました。この趣旨の宣伝の許(もと)にキリスト教会さえも積極的に戦争協力に走り、「敵性宗教」の汚名を克服するために他宗教に先んじて励んだのでした。

1945年8月、敗戦の現実に直面して私はどんなに絶望したことでしょう。生きる目的を失った者として虚無の中に佇(たたず)む他ありませんでした。しかし間もなく「真相はこうだ」というラジオ番組が始まり、常に勝利の報道を続けていた大本營の欺瞞が明らかにされました。

1942年開戦1年足らずで帝国海軍は大敗し、一挙に守勢に立つことになったのみならず、太平洋戦争における日本帝国の侵略的性格が明示されたのです。虚無の私は怒りに燃えました。

しかし、1947年、日本国憲法が公布され、その前文に接した時、私は涙と共に新しく平和を目指す人間として再出発を決意することができましたし、それが現在キリスト教会の牧師としてあることの契機となったのです。従って私にとってキリスト者としての人生は反戦・平和の追求以外のものではありません。

1. 川崎に派遣されて

神学校(青山学院大学)を卒業した私は恩師浅野順一先生に導かれて川崎における開拓伝道に派遣されました。1955年、そこで在日大韓基督教会川崎教会の李仁夏(イ・インハ)牧師に出会ったことは私の牧会者として人生にとっても決定的なことでありました。

李牧師は長男を地元の小学校に入れる際に「日本人の保証人を立てろ」と言われたり、長女を保育園に入れる時に「朝鮮人」を理由に入園を渋られたりした経験を踏まえて、自分の教会堂を開放して同胞のための保育園を開設しました。ところが日本人の親たちが入園を希望して殺到して来たのです。李牧師は「民族名」で互いに呼び合うこと、主イエスの「隣人を愛しなさい」を保育原理とすることの了解を求めて、日本人児童を受け入れたのです。

ここから始まる李牧師の在日韓国・朝鮮人の人権確立、差別克服の運動の詳細はとてもここに書き切れない巨大な働きでありました。

日立就職差別、指紋押捺拒否、金融差別、本名差別による教会員家族の自死等々の戦いにおける李牧師の常に語ったことは「これは日本人を糾弾するのではなく、共に生きることを願っての日本人へのラブ・コールです」という言葉でした。

特に印象に残った一つの例は、川崎市教育委員会との対話の場面です。何回にもわたったこの対話の中で教育委員会は「新憲法下において差別はありません。日本人と同じようにコリアンの子どもも扱っています」と言います。同席していた母親たちは「日本人と同じように差別なのです。民族の異いを認めて共に生きるのが民主主義ではないですか。」と応答します。李牧師は「先生方は私たちコリアンの子どもたちの教育も恩恵とお考えですか。それとも権利とお考えですか」と問います。教育委員会の方々は沈黙のままですが、李牧師は更に「もし恩恵とお考えならば、それは

私たちにとっては屈辱です。教育は全ての者にとっての権利ではないでしょうか。」と続けます。

このような対話の中で、教育委員会の意識が変えられていったのです。そして川崎市に赴任する公立校の教員は必ず1年間、民族差別について学習することが義務づけられました。そしてそれらの結果が現在の「川崎市ふれあい館」の設立になったのでした。「ふれあい館」は公設民営の福祉施設で運営は青丘社(せいきゅうしゃ)という韓国人教会が主に担っている運動体が行っています。私自身は李牧師と49年間、伝道・牧会・人権運動において協力して参りました。そして本当に光栄なことに李牧師の葬儀におけるメッセージを私がするようにとの家族の方への遺言があり、その通りにさせて頂きました。

## 2. 歴史の正しい認識こそ出発点

現在、日韓・日朝の関係は甚だよろしくありません。その根本の理由は日本帝国の植民地支配の歴史について、現日本政府が正しくこの歴史を見つめ、反省と謝罪を公式に行っていないからです。

台湾において50年、朝鮮において36年、その植民地支配の歴史は一貫して皇民化政策なるものによって行われました。それは、朝鮮人・台湾人を天皇の「赤子(セキシと読む)」にすることで、それは最高に名誉ある扱いであるというのが当時の日本政府の主張でありました。

しかしそれは、朝鮮民族、台湾人にとっては自国の歴史、文化、生活の全てを否定されて「日本人化」することであり、到底受け入れられない政策でありました。天皇の宗教である神社への参拝、日本風に創氏改名する、朝鮮語・台湾語の禁止等々が徹底して行われました。

例えば朝鮮人・台湾人の全てに「皇国臣民の誓詞」なるものをあらゆる大切な場面で言うことを強制しました。それは次のようでありました。

一、私共は大日本帝国の臣民であります。

二、私共は心を合わせて天皇陛下に忠義を尽くします。

三、私共は忍苦鍛錬して立派な強い国民になります。

これがそれぞれの民族にとってどんなに屈辱的なことであったか、立場を違え考えれば充分想像できるでしょう。このような経過の中で神社参拝を拒否したキリスト教会の牧師が50余名殉教しているのです。

このような歴史を日本政府は自ら不問にしたまま戦後77年を過ごしてきました。「従軍慰安婦」「徴用工」などにはここでは言及できませんが、朝鮮戦争やベトナム戦争で豊かになった日本は戦後の憲法における謙虚な姿勢を忘れて甚だ傲慢な国になってしまったのではないのでしょうか。

日本政府は1965年の日韓条約で全て解決済みと主張しますが、朝鮮戦争後の疲弊しきった韓国に10億ドルの「経済支援」を行った時に、この歴史問題は公には扱われませんでした。

ここで私の言う「公け」とは、日本の国会において正式に「皇民化政策」の謝罪をすることです。植民地支配は国家的犯罪とも言うべきもので、専ら道義的責任が問われるべきであるのに、日本政府は再度、道義的問題を経済支援という形にすり替えているのです。これでは韓国人民が納得しないのは当然でありましょう。ましてや朝鮮民主主義人民共和国に対しては、何もしないのみならず敵意を煽る始末です。

## 3. キリスト教会として

このような事態の中で私たちキリスト教会としては、どのように動くべきでしょうか。単に考えるだけでなく動く必要があります。つまり、少なくとも新しい歴史を営むべきでありましょう。第二コリント5章18節に示されているように、「和解の務め」の課題があります。神は主イエス・キリストを通して「罪を問うことなく」唯憐れみの故に世と和解され、そして応答としての「和解の務め」を示されました。この「務め」こそキリスト教会がその存在を賭けて励むべき使命であり

ましよう。

国家の政治的歩みがどうあろうとも教会としては、かつての植民地支配の罪責を告白しつつ、「和解の務め」を担うべきでありましょう。むしろ国家がその罪の故に出来ないこと、しようとしないうことを、教会こそが「とりなしの祈り」をもって先手を打ってなすべきではないでしょうか。

国家の怠惰を唯、批判追求するのではなくて、民間で市民として先手を打って韓国・朝鮮・台湾との「和解の務め」を進めるべきではないでしょうか。

私個人としては恐縮ですが、川崎での伝道の営みの中で李仁夏牧師との出会いを通して示された「和解」の道を模索しつつ、在日コリアンに対するヘイトスピーチへの抵抗や朝鮮学校との交わりを通して、朝鮮民主主義人民共和国訪問の機会も得ました。2015年夏、4人の友人と共和国を訪ねました。私の目的は、まず朝鮮キリスト教会との交わりの中で日本基督教団の「戦争責任告白(ハングル版)」を届け、その趣旨を述べ、且つ謝罪の意を表すこと、南北分断の現実に対する日本の責任を思い、その自主統一のために協力すること、そして在日コリアンとの差別の撤廃のために尽力することでありました。

今ひとつ私の父が大正年代に北の鎮南浦メソヂスト教会の牧師をしていたので、その痕跡を訪ねる希望がありましたが、この教会は失われていました。この時いわゆる38度線の板門店の朝鮮側の基地から南に向かって上記3項の願いを祈りをもって言い表しました。すると、通訳の方が「今の祈りは大切な内容であるからコピーをさせてほしい」と言われました。ささやかな、不十分な言葉ではありましたが、共和国の公務員の方にこの和解を求める祈りが残されたことは、私としては何ともありがたい主の導きであり、光栄そのものと感謝した次第です。

キリスト教会として私たちは国家間の動きはどうであれ、御言葉に従って「和解の務め」を担いつつ「先手を打つ」営みに励みたいと思います。具体的には朝鮮学校に対する差別を始め、在日外国人への差別の撤廃のために「器」に応じて働くことでありましょう。そのような営みの成果を見ることは難しいかも知れません。しかし結果を見る事が出来なくとも、主の御業の「神の国」を仰ぎ望む者としては、このプロセスを生きることで充分でありましょう。それこそ「天にて喜び大いなり」であります。(自筆原稿をタイプ・完)